

自閉症患者の聴覚過敏

三重大が原因一部解明

自閉症における聴覚過敏の原因を突き止めた研究成果を発表する三重大の江藤みちる助教（左）と成田正明教授―津市の三重大で



三重大が、自閉症患者にみられる聴覚過敏の原因の一部を解明した。原因は聴覚神経の興奮異常とわかり、「音がどこから聞こえるか」と問診することで、自閉症かどうかの診断精度を高めることが期待されるという。

自閉症は先天性の発達障害で、コミュニケーションや社会性で障害がある。聴覚過敏の症状も一部患者で確認されるが、原因は不明だった。

三重大大学院医学系研究科の江藤みちる助教（41）らは、自閉症のラットを使って、聴覚に関わる器管や神経系を研究した。その結果、「上オリーブ複合体」と呼ばれる神経内で、信号を抑制する役割の神経細胞に障害があり、信号が過度に伝達される異常を突き止めた。

【橋本明】この抑制神経は「音

がどの方向から聞こえるか」を判断しているため、問診で音が聞こえてくる方向を正確に認識できるかどうかを確認することで、自閉症かどうかを、より正確に判断することにつながるという。

13日に三重大で記者会見した成田正明教授（55）は「自閉症の問診で、これまでこうした項目はなかった。学会などで広く周知していきたい」と話した。

【山本萌】

自閉症の聴覚過敏原因解明
平成29年3月14日
毎日新聞

三重大「解体新書」原著を公開

1748年発行のラテン語版

江戸時代に杉田玄白らが翻訳した医学書「解体新書」の原著「ターヘル・アナトミア」のラテン語版が20日、三重大で公開された。

元は1722年にドイツ語で出版された解剖学書で、玄白らが和訳したオラ



ていたが「解剖学は医学の基礎。多くの人に関心を持ってもらいたい」と、この日限定で一般公開。職員や学生ら約80人が訪れた。

成田教授は「図が繊細で美しく描かれている。人体を理解するため五感を使った姿勢を見習わなければ」と話している。

医学書「解体新書」の原著「ターヘル・アナトミア」のラテン語版を紹介する三重大の成田正明教授 20日午後、津市

所蔵の「解体新書」原著を一般公開
平成27年8月20日
中部経済新聞